

## 和佐谷町とのタウンミーティング

日 時 令和4年12月16日(金) 18時30分～19時30分

会 場 和佐谷町公民館

参加人数 10人

### 1) 開会

### 2) 市長 市政報告

○はじめに

・今日は、インクルーシブのみという題名でお話をさせていただく。インクルーシブというのは、地域共生社会、要は誰も仲間外れにしない、取り残さないです。健康な方も、障害をお持ちの方も高齢者もお子さんも外国人も能美市に住む全ての皆さんに、安全安心快適に暮らしていただける、そういった内容でお話をさせていただきたい。

○8月4日の大雨について

・市内全域で大きな被害があり、各所で冠水が発生した。農業にも大きな被害が出た。頭首工という、川をせき止めて水を上げて、農地に流すという機械が鍋谷川に15ヶ所あったが、全部流された。イノシシの柵も約1キロにわたって流され、頭首工が壊れたので農地に水を入れられないことから、給水ポンプを数カ所設けて農地に水を入れていた。

・史跡名勝では林道の仏大寺線、鑪水観音で大きな被害が出た。七つ滝や蟹淵へ行く道もひどい状況だった。和佐谷線では土石流が起きて完全に止まったところもあった。

・市内全域で冠水したが、鍋谷川周辺が一番大きな被害ということだけではなく、西川周辺のエリアでも広い範囲で冠水があった。床上床下浸水が約120件、事業所で34ヶ所。それから水が入った農地が20ヘクタール、土砂が入った農地が12ヘクタールであった。

・4年前の7月にも市内に避難指示を発令した。そのときは、大雨警報が発表されて、5時間後に土砂災害警戒情報が発表された。ところが8月4日は、大雨警報が発表されてから、土砂災害警戒情報が発表されるまで、50分しかなかった。8月20日は、20分で土砂災害警戒情報がでた。

・朝の4時から5時までの間、時間86mmという、過去に経験がない雨がまさにこの能美

市に降ったということです。当日市では、5時に土砂災害警戒情報が出て、6時半に部局長を全員集めた対策会議があり6時40分に避難指示を出した。この日は午後になると雨が小康状態になるだろうと言われていたが、実際には夕方まで雨が降り続いた。

・翌8月5日からの対応ですが、過去経験したことがない雨だったことから過去経験したことのない対応を求められた。まず緊急窓口を開設した。家が冠水して、その水を出すためのポンプを貸してほしいという要望がありましたが、能美市はそんなポンプは1台も持っていなかった。消毒をするためのポンプも持っていなかった。いろんなところから何とか用意して対応をした。それから罹災証明の窓口を開設し、5日に緊急の災害対応のワンストップ窓口も開設した。ボランティアの皆さんを受け付ける場所を社会福祉協議会と、寺畠町の二か所にして対応させていただいた。そしてゴミの臨時集積所を市内3ヶ所に設置した。

・2次災害が起きないように、土嚢を組んだり、ブルーシートで覆ったりもした。被害状況を把握する必要があったことから市内の調査も行った。同じような水害が二度と起きないように国県に要望に行き、馳知事や岡田大臣にも来ていただいた。被害が多かった地域へ行き今日のような説明会も開催してきている。

・まさに過去経験したことのない大雨ということで、9月の議会で5億9300万円の予算を計上し、今、承認をいただいた施策を順次進めている。12月の議会でも一部計上させていただいた。

・我々もこれまで防災減災に向けていろいろやってきたつもりでしたが、50年に一度の大雨ということから色々な事を学びましたし、学んだことを生かすよう、さらに見直しをしていく。ただその一方、避難所も市内で3ヶ所設けたが、避難所に行けない。あるいは避難所まで遠いので、近くで避難したいという方が中にはいらっしゃり、ある町会や町内会では、公民館を一時避難所として開設していただいたり、皆さんで力を合わせて土嚢を作って、水が来ないようにしていただいたところもあったりして、我々能美市の職員でやれることも限界があることも改めて感じ、この市民力地域力、皆さんと一緒にそれぞれの町それぞれの命を守るということもやっていかななくてはならないと改めて感じている。

・国県も今回の水害を重く受け止めて、前倒しでいろんな施策に順次取りかかっていたいただいている。

#### ○新型コロナウイルス感染症について

・最近少しずつ感染者は多くなってきている。新型コロナウイルスもそのタイプが刻一刻と変わっていて、ワクチンの種類も変わっている。今の5回目のワクチン接種は現在流行しているウイルスに対して効果があるワクチンで、4回目の接種から3ヶ月経過した市民に、接種券が今送られている。接種を希望される方は早めに予約をしていただければと思う。

#### ○市の施策について

・能美市では、七つの施策事業と新型コロナウイルス感染症対策、すべてを移住定住の促進

に繋げるということをやっている。移住定住の促進をしていくためには、市民力や地域力、ふるさと愛を醸成していかないと成しえないといろいろな施策を行っている。

#### ○市の課題について

・現在の人口動態と世帯数ですが、最近人口が減ってきている。減ってきている要因は、二つあり、自然増減と社会増減です。自然増減は、やはり新型コロナウイルス感染症が拡大をしていることもあってか、全体的に生まれてくる赤ちゃんが減ってきている。社会増減は、引っ越して行かれる人と来られる人ですが、能美市は外国人が住んでらっしゃる人口当たりの比率が県内でナンバーワンです。ところが、今新型コロナウイルス感染症の関係で、外国人の方が減ってきていて、なかなか人口が戻っていない。

・高齢者を含む世帯がだんだん増えてきている。また、お1人暮らしの世帯がすごく増えてきている。高齢者の一人暮らしということだけではなく、高齢者でない人でも一人暮らしが最近増えてるのは日本全体の傾向でもある。

・能美市の現状と課題ということで、社会増に向けて子育てとか住環境を充実させよう、自然増を実現するため健康寿命を延ばそうと取り組んでいる。

・自然災害や事件事故、事件も少なくしていく。外国人の比率がナンバーワンと申し上げたが、外国語対応をどうやっていこうかと多言語対応に取り組んでいる。

・企業誘致が大変好調である。2023年4年までに約1000人の新しい雇用先が生まれる。その1000人が、既存の能美市の企業から流出をしてしまっただけではこの企業誘致の効果が半減してしまうので、大都市圏から人を持ってこようといういろんな取り組みをやっている。

・感染症対策で、非接触型のサービスが必要となっている。三町が合併して市制17年、学校や下水道や色々な公共施設やインフラが老朽化をしてきている。

#### ○インクルーシブシティについて

(デジタル化)

・これらの課題に対して、デジタルの力を使って色々なことをやろうと取り組みをしている。

・例えば、どこか道路が傷んでいる時に電話で言ってもなかなか通じない、スマートフォンで写真を撮って送れるということをやった。GIGAスクール構想で、全国の子どもたちがパソコンを1台ずつ机に置いて授業をやっている。図書館に行くのは遠かったり、新型コロナウイルス感染症で図書館に行きづらかったりする皆さんがたに本を読んでもらえるように、パソコンから本を見れる電子図書館を導入した。

・市役所では、ペーパーレス化に取り組んでいる。紙をなくしてタブレットで仕事をしようということ。もう一つ今取り組んでいるのは、防災行政無線の多重化です。皆さんのスマートフォン等々に、この防災行政無線の内容を文字で流すようにします。室内機も新しいのに更新をします。固定電話でもう1回確認できるようにもします。ケーブルテレビやホーム

ページでも発信して多重化をしていく。電波状況を高めるために、中継機を新設して、電波が来やすい様に変え機械も新しくすることも順次行っている。

・危機管理の情報だけでなく、いろんな情報を皆さんがたがワンクリックかツークリックで見れるような能美市版のポータルサイトを作っていく。今年度末までに完成できるように今すすめている。

#### (医療介護DX)

・先ほど一人暮らしが多くなってきてるとお話した。お一人暮らしの方が具合が悪くなって、隣の家の方が救急車を呼んで、救急車が来た。救急隊は、その方が今までどんな病気にかかったか、どんな薬を飲んでいたか、かかりつけ医はどこか、緊急連絡先は等々を全部把握して病院に連れて行かないといけない。けれども本人が具合悪く言えない。

・そういった問題を解決するために、情報をデータベースに登録しておいて、必要なときに必要な情報を取り出せるようにして、病院に駆けつけていこう。ということをやっている。救急車を呼んだ時だけでなく、自宅で療養するようになったときに、ケアマネさんに情報が伝わるようにもしようとしている。

・最終的には、例えばこの公民館で病院行かなくても、ある程度の診察を受けられるようにして、ドローンが薬を運んでくるというようなイメージを思っている。

#### (子育てDX)

・お母さんのおなかの中にいるときから、生まれて、そして保育園、小学校、中学高校となっていくときに、医療の情報はお医者さんが変わると、カルテが変わるのでバラバラなんです。それを一気通貫で管理できるようにしましょう、また予防接種を受けるときの予診票の記入が大変なんで、こういった手続きを簡単にしよう今始めている。

・誰も取り残さない、みんな安全安心快適に暮らせるように、デジタルの力を使ってやっっていこうというのが、このインクルーシブシティということです。

#### (相談体制)

・デジタルの力だけに頼っているわけではなく、やはり人と人が触れ合ってフォローしていくことも重要です。今、一つの家でご家族がいらっしゃると、いろんな悩みが複合している世帯が増えてきている。市役所でお悩みを相談する窓口が今は違うんです。なぜ違うかという、専門性を持って相談に乗って、アドバイスをしないといけない。ただそれですと、市民の皆さんが相談に来た時にたらい回しになってしまうので、チームを作って専門家がみんな集まり、それぞれが聞いてみんなで解決をしていきたいと思います。ということをやっている。

#### ○今後の取り組みについて

・2023年7月に加賀立国1200年を迎える。この能美という自治体ができて1200年です。この1200年をお祝い、そして次の年に向かってイベントをしていく。10月には、いしかわ百万石文化祭ということで、石川県全体がいろんなことをしていく。能美市でも色々なイベントを考えているので、ぜひご協力ご参加をお願いしたい。

・新幹線がいよいよ県内全線開業する。この効果を、いろんな分野にもたせたい。一般的には観光かもしれないがそうではなく、産業を振興させる。あるいは、新幹線ができたことによって、石川県能美市に住んでみようという方もいらっしゃるかもしれないことから、いろんな効果を出していきたい。2025年の2月に市制20周年を迎えるので、少しずつ準備をしていこうと考えている。

・今年は、3年ぶりということいろいろなイベント行事があった。やはりブレーキばかり踏んでいるとストレスもたまってくる、コミュニケーション不足になってくることから色々なことをやった。また義援金や寄附金を本当にたくさんいただいた年でもあった。災害協定や、何かことが起こったときにサポートをいただくそういった協定をたくさん結ばせていただいた。

・2022年は議会で今年1年を振り返って漢字一文字でと言われ、「復」という文字を選びました。これは信頼を回復させる、復興復旧に取り組む。いろいろなイベントが復活をしてきたということから、この「復」という文字が今年の一文字かという思いをしている。

### 3) 閉会